

平成28年第1回 魚津市教育委員会会議録

1 開催日時及び場所

平成28年1月14日（木）午後4時

第一分庁舎2階会議室

2 出席者

教育長 畠山敏一

1番 大野聡一

2番 島津豊

3番 宮本玲子

4番 細川祝

3 出席職員

次長兼教育総務課長 殿村伸二

生涯学習・スポーツ課長 宮崎悟

こども課長 中山明夫

図書館長 高山茂樹

埋没林博物館長 麻柄一志

学校教育係長 矢野道宝

教育総務課主任 明石主計

学校教育課長 宝田哲

地域協働課長 吉崎敏

学校給食センター所長 住田賀津彦

水族館博物館長 稲村修

教育総務課長代理 江田直樹

スポーツ係長 小林弘幸

4 傍聴人 なし

5 会議の要旨

午後4時、畠山教育長が開会を宣する。

(1) 前回会議録の承認

全員異議なく承認した。

(2) 議案

議案第1号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果報告（平成26年度実績）について

関係課長から説明し、全員異議なく承認した。

(3) 報告事項

① 指定管理者の指定について

② 魚津市立図書館の行事予定（1月～3月）について

③ 今後の予定について

(4) 議事

【教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果報告（平成26年度実績）について】

細川委員

「学校教育の充実」に「豊かな心を育む教育の推進」とある。心の支援を考えるときに、不登校の児童生徒の割合とかいじめの認知件数がわかりやすい数字で表れるのでそこに着目しがちだが、実際現場で感じることは、学校に毎日来ている子どもたちの中にもいろんなものを抱えていることは多い。学校に来れない状態にならないと支援が受けられないとか、手を差し伸べてもらえない。いろんなサインを出しているのに、学校に来ているということで軽く見られ大丈夫だとなりがちだ。いじめの問題があったときに、いじめられている側の支援はかなり早く受けられるようになってはきているが、いじめる側にもいじめをやめられなくなるという心情があるわけで、いじめる側の支援だとか、あるいは授業も受けているし、何とか活動にも参加しているけれども苦しい中で何とかやっている子どもたちへの支援だとか、まとめて言うと予防的な視点に立つ施策も必要である。いろんな調査はされているので工夫はしていると思うが、サインを出してもなかなか拾い上げてもらえないということがあるので、不登校というわかりやすい形やいじめという問題として上がってくる前段階での支援につながっていきやすいような環境が整えられたらいいと思う。

宝田学校教育課長

予防面については非常に重視すべきところと思っている。対処療法のようになっているはいけないので、より一層配慮できるよう心がけていきたい。

宮本委員

この計画は、不登校についての目標は設定されているが、いじめに関する目標値はない。次の後期計画の中で設定する予定はあるのか。

宝田学校教育課長

いじめの件数については、数字ではゼロを目指すことが当然であるが、子どもたちが学校を楽しみと思える数が全体的に上がることを目標にしたいと思っている。

殿村次長

教育振興基本計画でもいくつかの事業に対して指標設定している。ダイレクトに取れる指標は少ないが、アンケート調査も取りながら対応していくことが必要だ。

宮本委員

「魚津っ子の学び向上委員会」は、学力向上に向けメンバーを決め、市の実態を把握した上でその取組みを考えていくような組織なのか。

宝田学校教育課長

数年前までは、校長会や教頭会、教務主任会と別々に活動していたが、ひとつの目標に向かって、縦の組織と横の繋がりを整理して、それぞれ学力向上と豊かな心の教育の2本立てでやっていこうということで、その組織の名前を「魚津っ子の学び向上委員会」とし、実践している。

宮本委員

41ページの学習の達成状況の実績値では、小教研の学力調査結果によるとしっかりと目標値を達成しているのはわかるが、(上の)活動内容のところでは、標準学力調査による実証・分析とある。標準学力調査とは、小教研や中教研の調査が中心なのか。

宝田学校教育課長

標準学力調査は民間業者の調査で、高学年の5、6年生を対象に魚津市が独自に予算をと

って実施しており、細かな分析が出てくることから、それを基に弱点補強や補充をしている。標準学力調査とは、このことを指している。

宮本委員

では、全国学力調査の結果は、この中にあまり反映されていないということか。

宝田学校教育課長

全国学力調査は、小6と中3（のみ）なので、この中には取り入れていない。

宮本委員

全国学力調査の実態も分析しながら、確かな学力に向けて力を入れていかなければいけないのではないかと思うが。

宝田学校教育課長

（調査により）傾向はそれほど違わないと思うので、それぞれ分析しながら方策を立てていく必要はあると考えている。

畠山教育長

どちらかというとな国学力調査は、教科、学年ともに限られた狭い中でやるため、年によって変化が出てしまう。小教研、中教研は全教科あり、それをさらに補うために、市独自でも調査を行い、実態を把握しながら対応している。

大野委員

ここで言うことではないかもしれないが、不登校のまま中学校を卒業した生徒は、引きこもりになってしまうことが多い。全国では、引きこもりの人が急に他人を殺傷したとかいう悲しい事件がある。地域にもそういう方が何人かいるので、安全も含めいろんな意味で見守りもしているが、やはり変わった行動をされたりということもあるので、そういう意味で横断的にフォローできるような部局があってもいいのではないかと思った。

畠山教育長

不登校の子どもたちは、新川みどり野高校が単位制で手立てしているのに加え、私立では高朋高校が不登校の子ども達を受け入れている。さらに、来年度から未来高等学院がアルファ進学塾の校舎を借りて、新川地区では初めて受け入れるといった話も聞いている。そうしたことがじわりと増えつつあり、裏を返すと皆と一緒に学べないという子が増えているということになると思われる。

大野委員

「すまいる」の先生方と以前、（卒業して、すまいるから）手が離れたときにどこかで受け入れる場所があるといいという話しをした。商店街の店など何か人と触れ合えるようなところで使ってほしいという話もあったので、人とのコミュニケーションを広げていけるような機会があればいいと思っている。

細川委員

40ページの施策満足度調査（学校教育の充実）では、23年度以降（数値が）下がっている傾向となっている。どういった事業で満足度が下がっているのか聞いてみたい。

殿村次長

施策満足度調査は、毎年無作為抽出による市民アンケートの結果であり、アンケートのとり方もしっかりと数値を捉えられるものもあれば、そうでないものもある。そうした意味で年度によって上下があるが、相対的には市民の満足度を見ていただけるといいと思う。（数値を出すことが）良い面と悪い面があるが、見える形にするため載せている。

細川委員

必ずしも基本事業ごとの数値を捉えていないとしても、数値が下がっているのであれば、
どういうところの数値が下がっているのかが、今後の課題整理やよくしていくためのヒント
になると思うので聞いた。

殿村次長

この施策評価については、私どもも数値を見ながら既存事業の課題と今後の取組みについ
て評価し、見直ししながら次年度につなげていくことにしている。

午後4時50分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。